

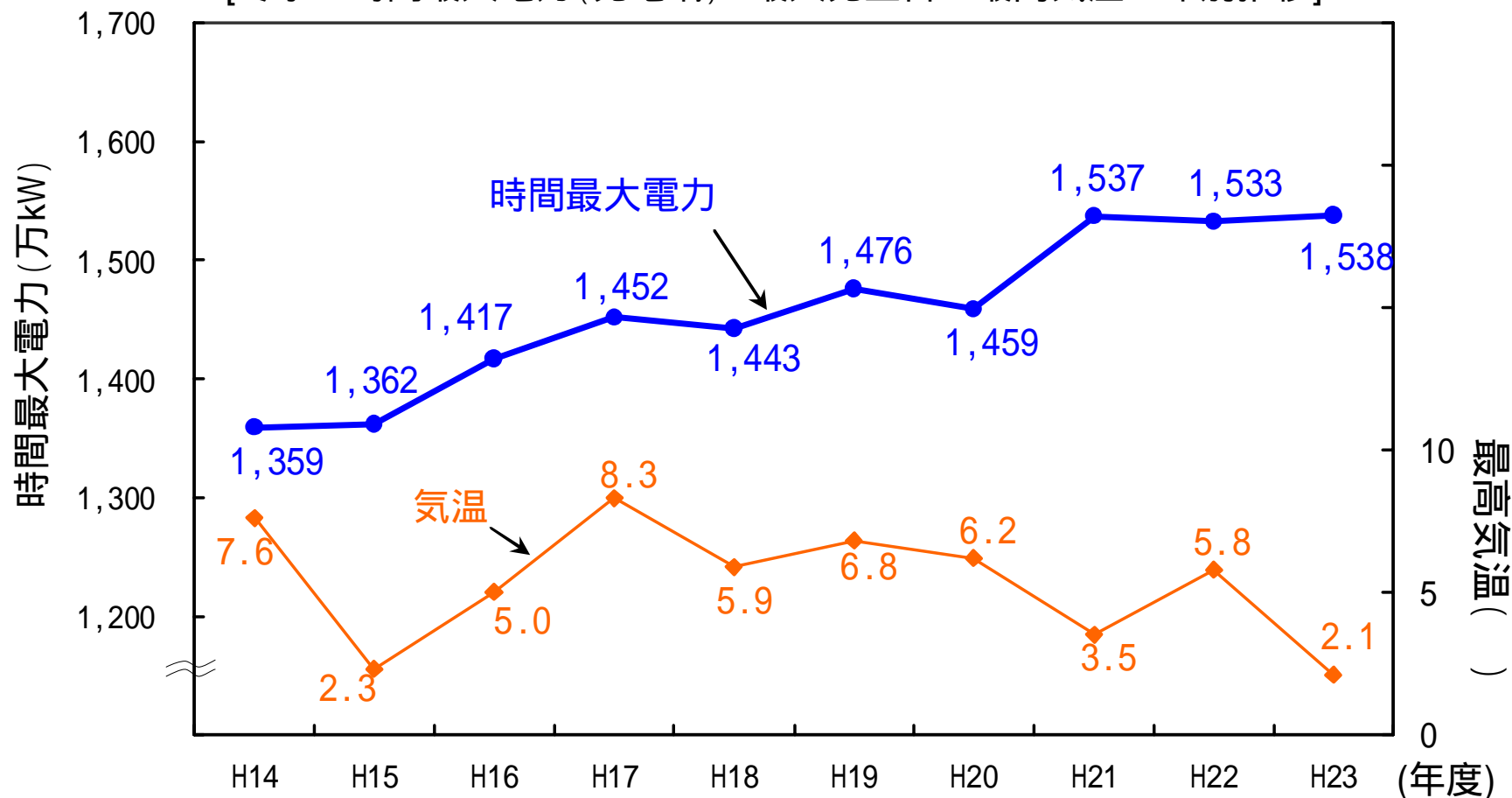
セクション 2

今冬の電力需給見通し

(1) 電力需要の年別推移

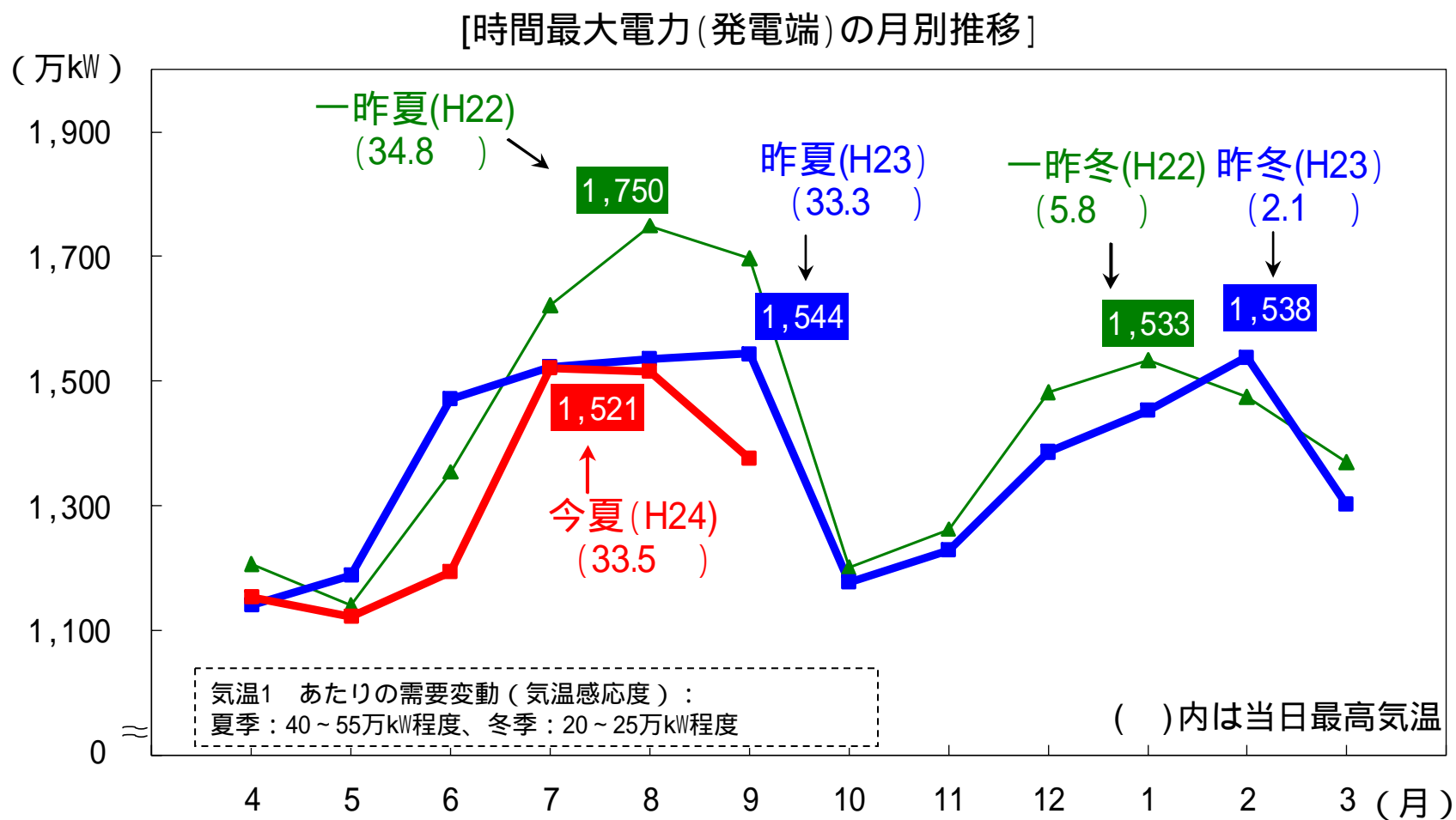
- 至近3か年の冬季の時間最大電力は、1,530万kW台で推移。
- 昨冬は、数値目標を伴う節電要請期間を通じて、一昨年比 6%程度の節電にご協力していただいたものの、寒波により九州全域で記録的な寒さに見舞われ、2月2日(木)に1,538万kWを記録し、過去の冬季最大電力を更新。

[冬季の時間最大電力(発電端)と最大発生日の最高気温の年別推移]

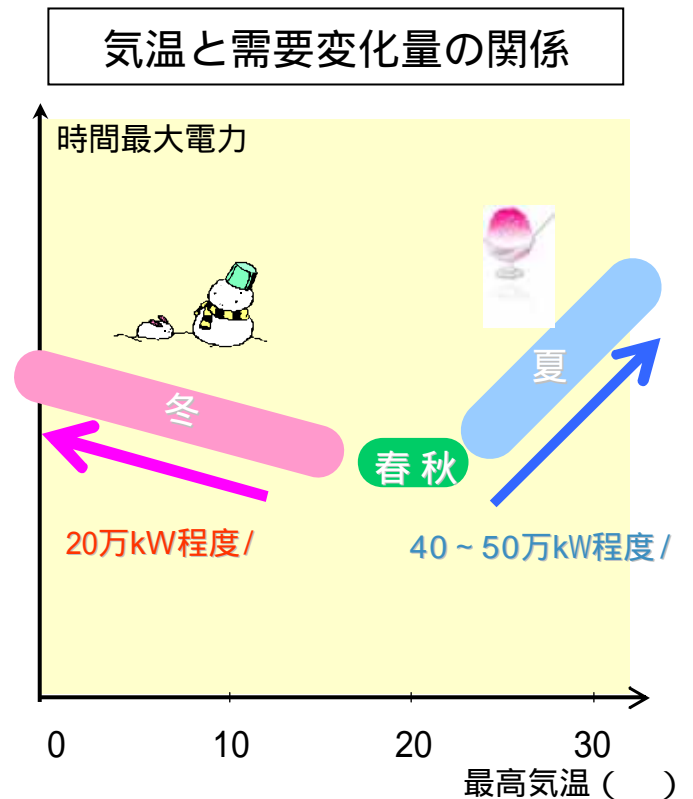
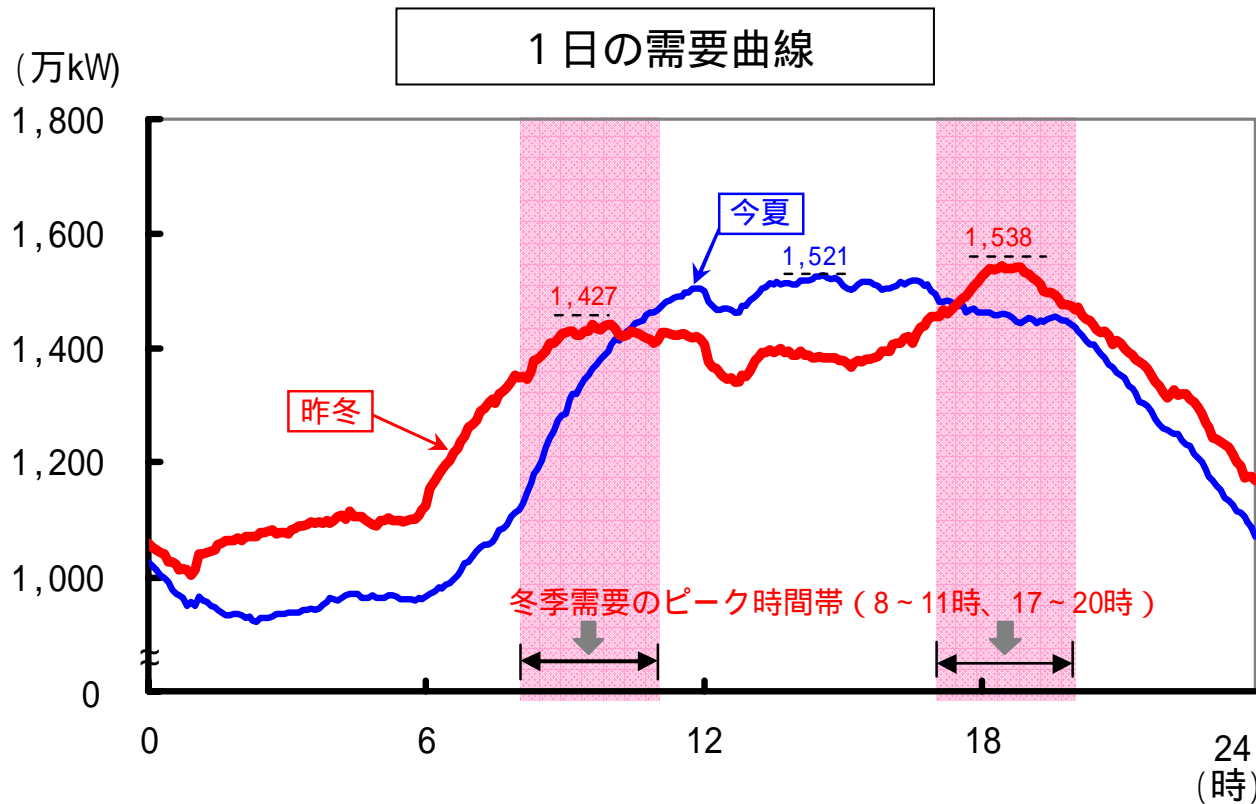


(2) 電力需要の月別推移

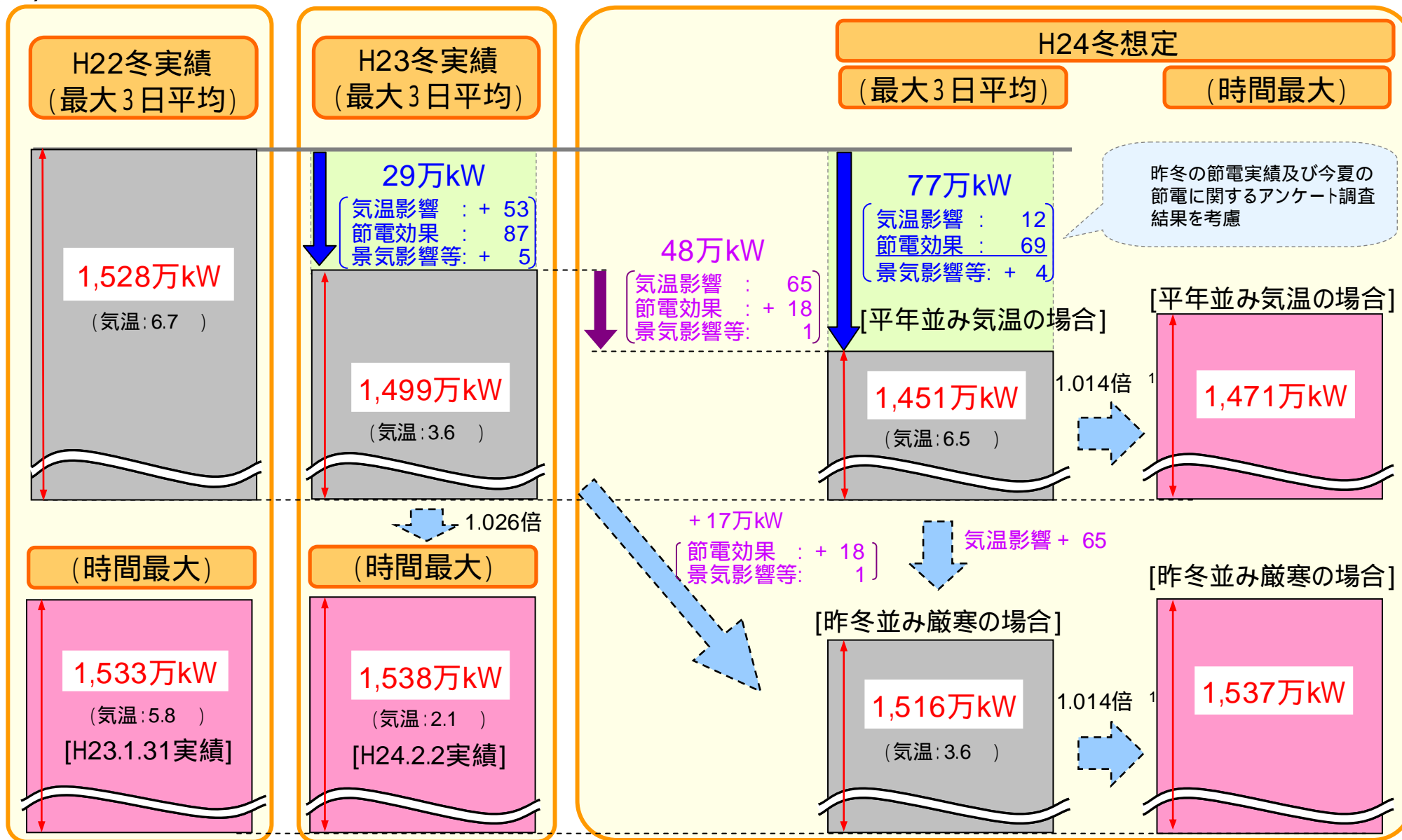
- 冬季の電力需要は、震災以前は、通常夏季の8～9割程度であったが、震災以降、夏季とほぼ同水準で推移。



- 冬季は、暖房の使用量が多くなる午前(8~11時頃)と照明や家庭用需要の多くなる点灯帯(17~20時頃)に需要のピークが発生。
- 空調や照明等の使用時間が夏季に比べ長いため、1日のうちで電力需要の大きな時間帯が長い。また、深夜および早朝の電力需要は夏季に比べて大きい。
- 気温が1℃低下すると、時間最大電力が20万kW / 程度増加。



(3) 今冬の電力需要想定



1 過去5ヵ年の冬季の時間最大(H1)/最大3日平均(H3)比率により算出

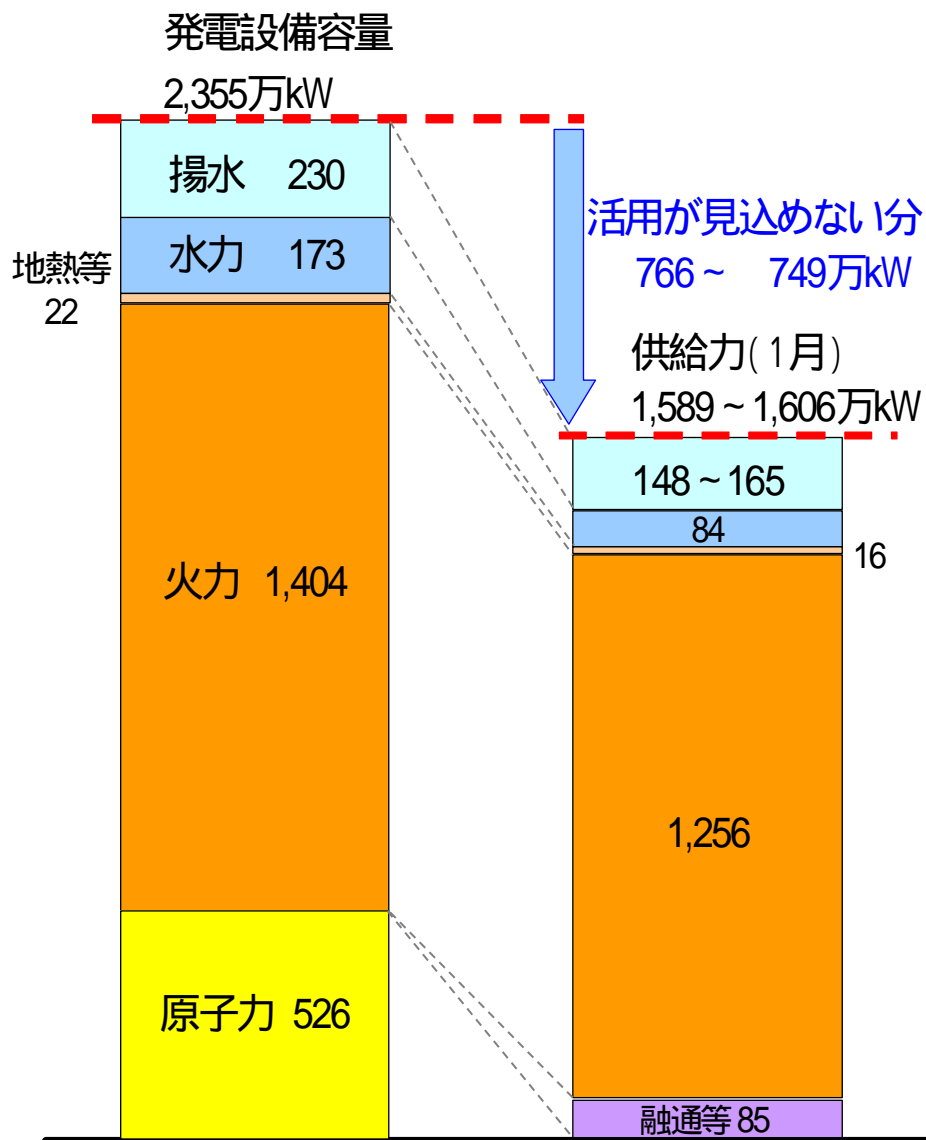
(1) 供給力対策

- 現時点（計画段階）で対応可能なあらゆる供給力確保策を実施。
 - 火力・水力発電所の補修停止時期の調整
 - ・設備の保安上、繰り延べ困難なものを除き、最大限補修時期の調整を実施。
（今冬は新大分1号系列3軸のタービン点検のみ実施）
 - 火力燃料の追加調達
 - ・原子力の代替として、追加調達を実施。
 - 他社からの受電
 - ・他電力会社からの応援融通の受電：最大で昼間76万kW、夜間37万kW
 - ・新電力・発電事業者からの受電：昼間11万kW、夜間14万kW
 - ・自家発からの受電：昼間12万kW、夜間10万kW
 - 水力発電所の廃止時期繰延べ
 - ・甲佐発電所（最大出力：0.4万kW）の設備更新に伴う廃止を繰延べ。
 - 緊急設置電源の追加設置
 - ・今夏に加えて、今回、新たに離島用の移動用発電設備2台（0.3万kW）を追加設置。
（計4台、0.6万kW）

(2) 電力需要対策

- 需要面からの対策として、昨冬導入した「冬季計画調整契約」を、今冬も実施。
 - 今後お客さまを個別訪問し、休日操業シフトや自家発稼働増による契約コンサルティングを実施。

- 今冬の供給力は、活用が見込めない分を除くと、1,589～1,606万kW程度となる見通し。



	発電設備容量と供給力(1月)との主な差	
	万 kW	
揚水	82 ～ 65	○ 昼間の揚水発電時間が長くなることから、揚水発電供給力が低下 ○ 電力需要の変動によって、揚水発電の運転に必要な時間が変わるため、揚水発電の供給力も変動
水力	89	○ 河川の出水状況を考慮 (渇水時でも安定的に見込める分を計上)
地熱等	6	○ 蒸気量の減を考慮： 5
火力	148	○ 休止・長期計画停止中の発電所(唐津、大分)の控除： 138 ○ 新大分発電所 1-3 軸の補修停止： 10 ○ 緊急設置電源の設置や自家発からの受電増： +13
融通等	+ 85	○ 他電力会社からの受電： +76 ○ 発電事業者からの受電等： +9
原子力	526	○ 全基停止：玄海 348、川内 178
合計	766 ～ 749	

(参考2) 発電設備容量と今冬の供給力の内訳(火力)

[万kW]

種別等			設備容量 (A)	今冬1月の 見込み供給力 (B)	差 (B - A)	備 考	
発電所							
火力	石炭	松浦 1号	70	70			
		苓北	1号	70	70		
			2号	70	70		
		苅田 新1号	36	36			
	LNG	新小倉	3号	60	60		
			4号	60	60		
			5号	60	60		
		新大分	1号系列	69	58.3	10.7	・1-3軸の補修停止(10.1)、気温影響に伴うガスタービン出力減(0.6)
			2号系列	87	87		
			3号系列	73.5	73.2	0.3	・気温影響に伴うガスタービン出力減
	石油	大分	1号	25	0	25	・休止中
			2号	25	0	25	
		唐津	2号	37.5	0	37.5	・長期計画停止中 (部品の調達・交換に2年程度必要)
			3号	50	0	50	
		相浦	1号	37.5	37.5		
			2号	50	50		
		豊前	1号	50	50		
			2号	50	50		
		川内	1号	50	50		
			2号	50	50		
苅田 新2号	37.5	37.5		・長期計画停止中であつたが、H24年6月に運転再開			
増出力運転				15	+ 15	・緊急時にのみ増出力運転を実施	
緊急設置電源				1.0	+ 1.0	・離島移動用発電設備の活用(+0.6)、豊前発電所ディーゼル(+0.4)	
内燃力		39.5	26	13.5	・本土と連系していない離島(内燃力)の島内需要対応分を除いた供給余力は、本土需要対応として活用できないため控除(21.6) ・本土と連系している五島の内燃力設備の臨時稼働(+8.1)		
他社		246.7	244.5	2.2	・所内電力等を控除(14.0) ・自家発等からの受電分を織込み(+11.8)		
合計		1404.2	1256	148.2			

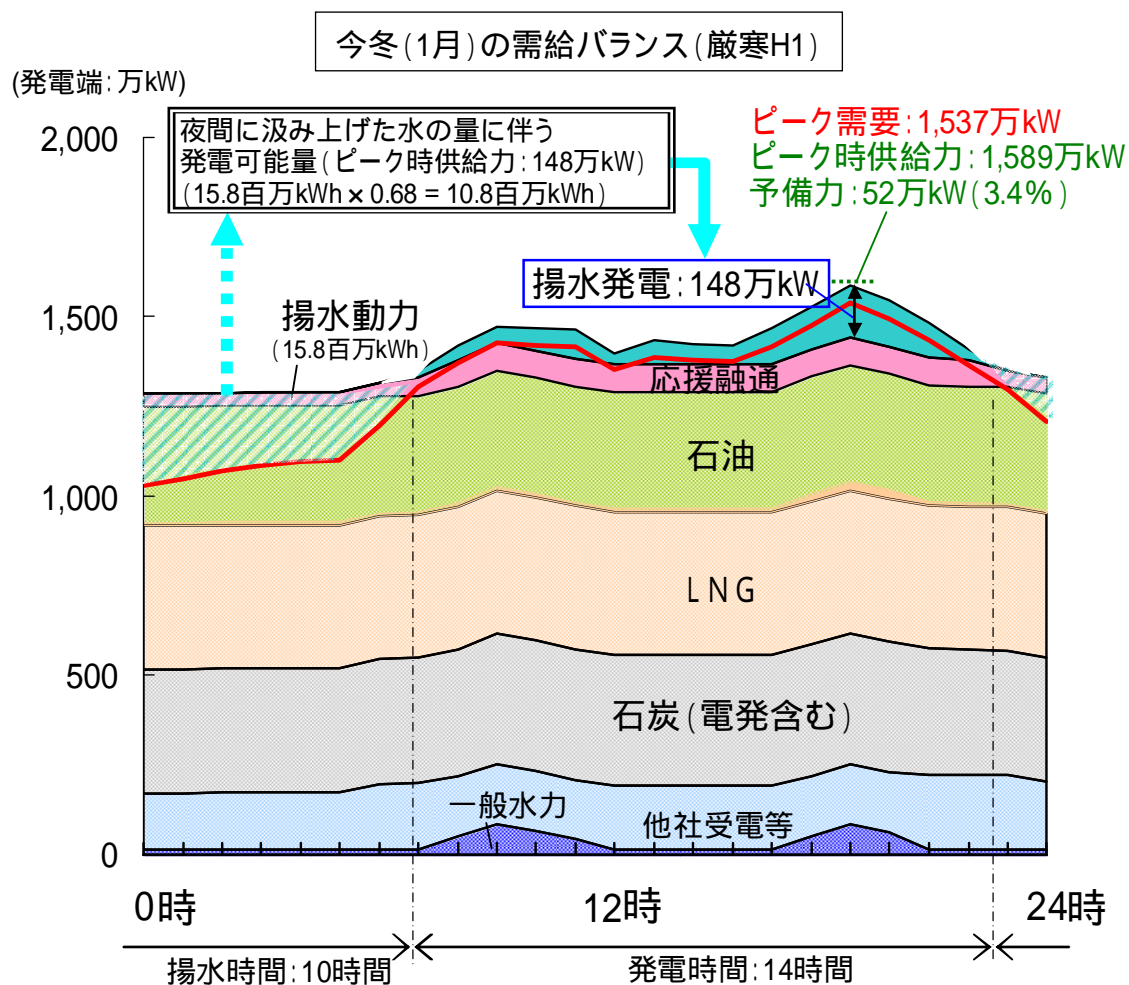
(参考2) 発電設備容量と今冬の供給力の内訳(水力、地熱等、融通等)

18

[万kW]

種別等		設備容量 (A)	今冬1月の 見込み供給力 (B)	差 (B - A)	備考
水力	自社(揚水除き)	128.2	62.3	65.9	・安定的に見込める分を計上(64.6) ・貯水池式発電所のダム運用水位を考慮(1.0) ・九州北部豪雨に伴う復旧作業(0.3)
	他社	45.1	21.2	23.9	・安定的に見込める分を計上(17.5) ・貯水池式発電所のダム運用水位を考慮(6.4)
	合計	173.3	83.5	89.8	
地熱等	地熱	21.2	16.3	4.9	・蒸気発生量の減を考慮
	太陽光	0.3	0.0	0.3	・冬季ピークが日没後のため、供給力として見込めない。
	風力	0.3	0.0	0.3	・安定的な出力が見込めないため、供給力として未計上。
	合計	21.8	16.3	5.5	
融通等	他電力会社からの受電		76.0	+76.0	
	新電力からの受電等		9.1	+9.1	
	合計		85.1	+85.1	

- 揚水発電は、火力や一般的な水力などと違い、電力需要が少ない夜間に水を汲み上げ、電力需要が増加する昼間に、それを流下させて発電するもの。
- 揚水発電の供給力は、上池に貯めている水の量に限りがあるため、その水の使い方によって変わり、揚水発電の運転時間が長くなればなるほど、昼間に活用できる供給力は減少する。



2(4) 今冬の需給見通し(原子力の再稼動がないとした場合の需給バランス)

20

(発電端:万kW、%)

	1月		2月	
	平年並み気温	H23年度 厳寒並み気温	平年並み気温	H23年度 厳寒並み気温
需要	1,471	1,537	1,471	1,537
供給力	1,606	1,589	1,602	1,584
原子力	0	0	0	0
火力	1,256	1,256	1,253	1,253
水力	84	84	83	83
揚水	165	148	164	147
地熱等	16	16	16	16
電力会社間融通	76	76	76	76
新電力 からの受電等	9	9	9	9
予備力 (予備率)	135 (9.2)	52 (3.4)	131 (8.9)	47 (3.1)

(注) 四捨五入の関係で合計値が合わないことがある

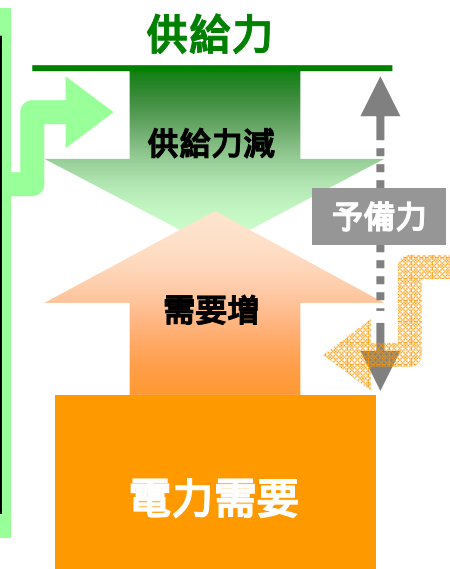
- 今冬は、現時点で対応可能な供給力対策を行ったとしても、予備率3%程度と十分な供給力を確保できない状況。
- さらに、昨冬(2月2日)のような寒波による電力需要の急増や、火力発電所等の電力供給設備のトラブルなど、以下のような需給変動リスクが顕在化した場合には、より厳しい需給状況が予想される。

[供給面の変動リスク]

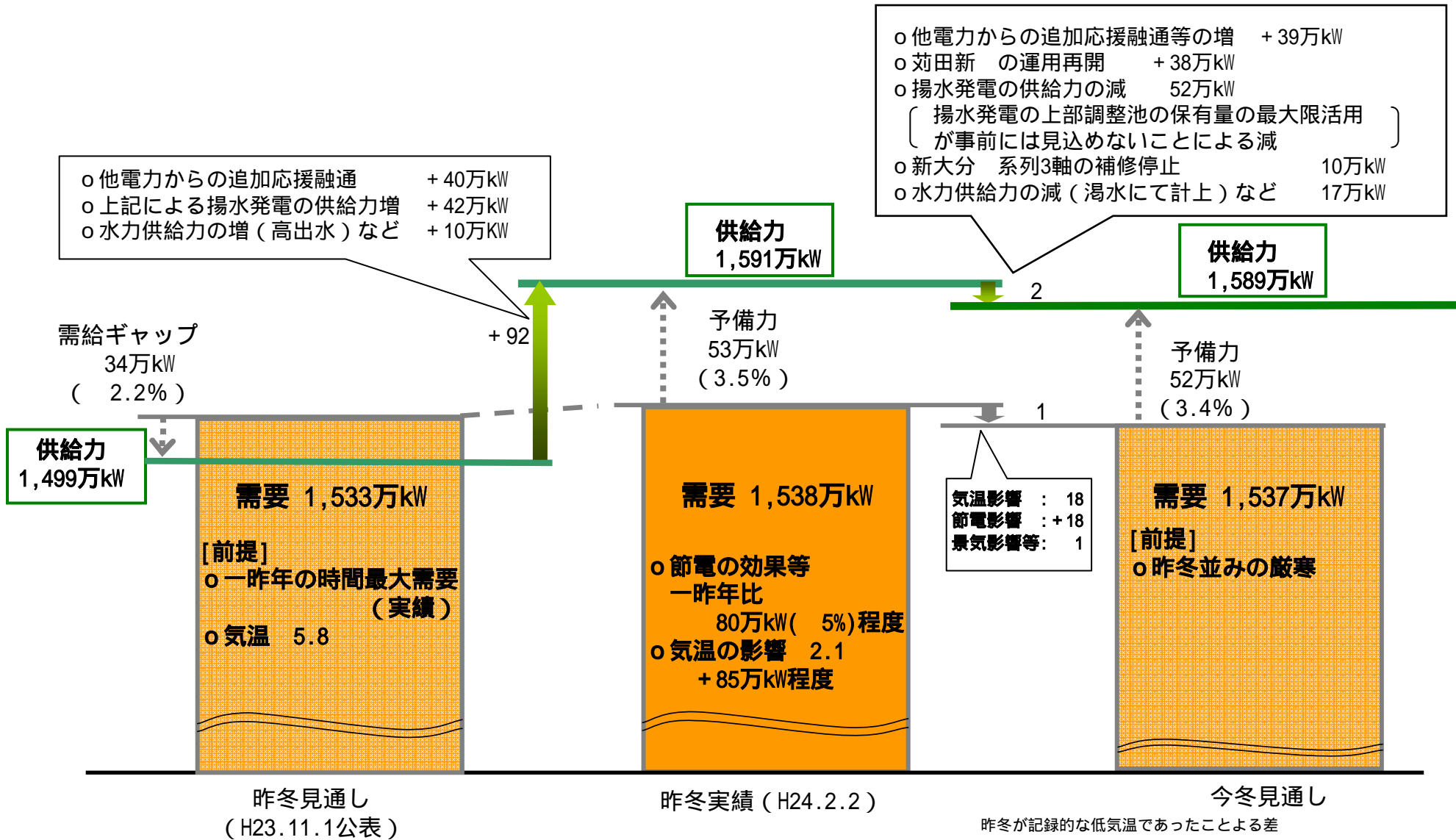
ケース	リスク [影響量]
A-1	発電所の計画外停止 ・単機最大 70万kW ・小丸川下ダム洪水による発電制限 80 ~ 120万kW
A-2	渇水による水力供給力の減 ・渇水の場合 10万kW
A-3	他社の応援余力不足による融通受電の減 ・中西地域の予備率の減、1%あたり 70万kW ・他社発電所の計画外停止

[需要面の変動リスク]

ケース	リスク [影響量]
B-1	寒波による需要増 ・気温1あたり + 20 ~ 30万kW
B-2	節電効果の減 ・節電率 1%あたり + 15万kW

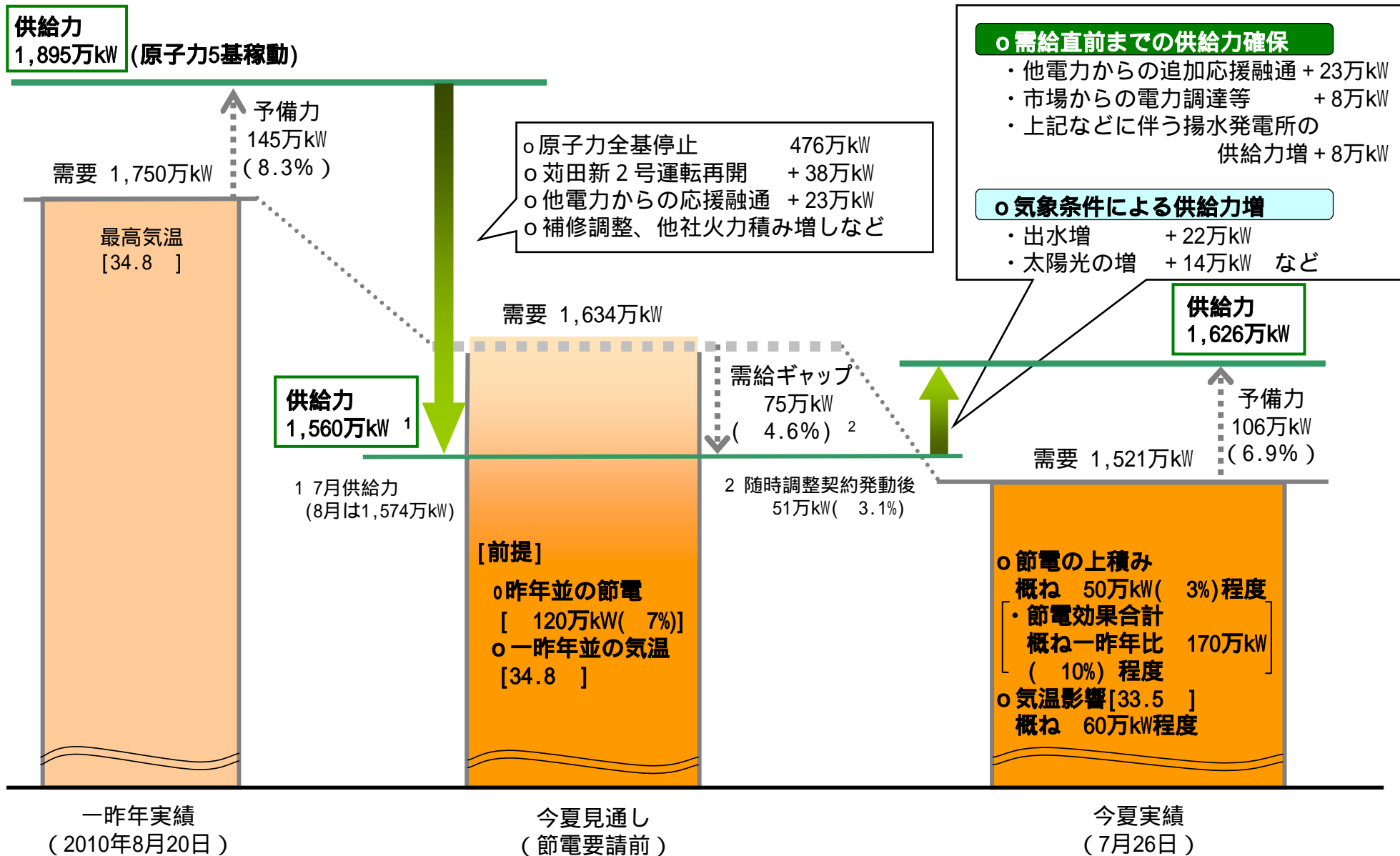


[昨冬実績と今冬見通しとの差]



2 (5) 今夏の需給実績 (今夏の最大電力発生日の状況)

【 需給実績 (一昨年・当社見通しとの差) 】



電力需要の抑制対策 (計画段階)

お客さまに対し、一昨年比 10%程度以上の使用最大電力の節電を要請

- * 節電のお願い期間を通じた取組み
 - ・夏季計画調整契約の拡充
 - ・最大需要電力調整割引
- * 需給ひっ迫時における取組み
 - ・スポット負荷調整契約
 - ・節電アグリゲーター
 - ・緊急時の節電ご協力お願いメール

気象影響による電力需要の減

気象の影響 【 60万kW程度】

電力需要の抑制効果

節電の効果等に伴う減少【一昨年比 10%程度】
 昨夏相当の節電（一昨年比 7 %程度）に上積み【 50万kW程度】

計画段階 (5月18日公表時点)

	当初見通し 〔一昨年並みの気温の場合〕
電力需要	1,634 (最高気温:34.8)
供給力	1,560
供給予備力 (供給予備率)	75 (4.6%)

実運用

	需給実績 (H1) (7月26日)
電力需要	1,521 (最高気温:33.5)
供給力	1,626
供給予備力 (供給予備率)	106 (6.9%)

電力需要対策

供給力対策

供給力確保対策 (計画段階)

- 火力発電所の補修停止時期の調整
- ・新大分1号系列第1軸 (10万kW) のガスタービン更新工事の延期など長期停止火力の再稼働
 - ・H23年度末に廃止予定だった苅田新2号 (37.5万kW、経年40年) の運転を再開【H24年6月8日運転再開】
- 緊急設置電源
- ・豊前発電所にディーゼル発電機 (0.4万kW) を設置【H24年7月18日運転開始】
 - ・離島の移動用発電設備 (0.3万kW) の活用
- 他社からの受電等
- ・他電力会社からの計画的融通の受電【23万kW】
 - ・自家発からの受電【15万kW】

需給直前まで追加の供給力を確保

- 計画段階では、電力調達の可否が不透明であるため見込めなかったが、需給直前の断面において、供給力の上積みを実施。
- ・他電力からの追加の融通受電【+23万kW】
 - ・市場からの電力調達など【+8万kW】
 - ・上記などに伴う揚水発電所の供給力増【+8万kW】

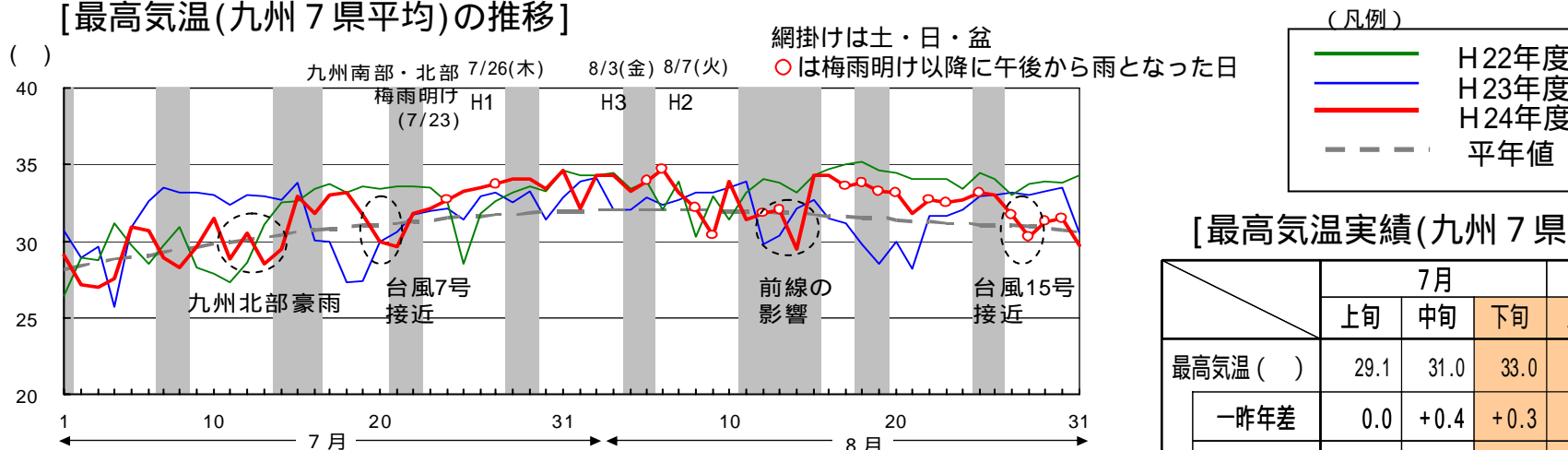
気象影響による供給力の増

出水増による水力供給力の増【+22万kW】
 太陽光発電供給力の増【+14万kW】

(1) 今夏の気象と時間最大電力の推移

7月中旬までは九州北部で豪雨となるなど、天候不順が続き、7月23日に平年より遅く梅雨明け。
 その後、7月下旬から8月上旬にかけては、最高気温が平年を上回る日が継続。【7月26日に時間最大電力を記録】
 8月のお盆以降には、太平洋高気圧が強まり、高気温となる日が継続。ただし、この時期は、上空の寒気の影響を受け大気が不安定となったことから、午後からの雷雨が多発。【時間最大電力は低く推移】
 このため、九州全域が一様に高気温となる日が少なく、更に8月の最高気温は一昨年より低く推移。

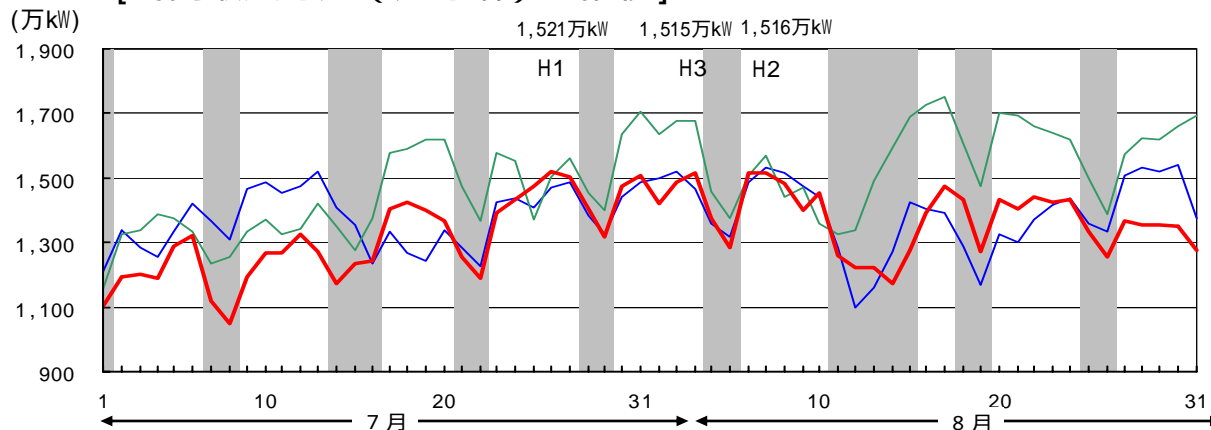
[最高気温(九州7県平均)の推移]



[最高気温実績(九州7県平均)]

	7月			8月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
最高気温()	29.1	31.0	33.0	33.2	32.7	31.9
一昨年差	0.0	+0.4	+0.3	0.6	0.6	2.2
前年差	1.1	0.8	+1.5	+0.5	+0.9	+0.3
平年差	+0.1	+0.4	+1.4	+1.2	+1.0	+0.9

[時間最大電力(発電端)の推移]

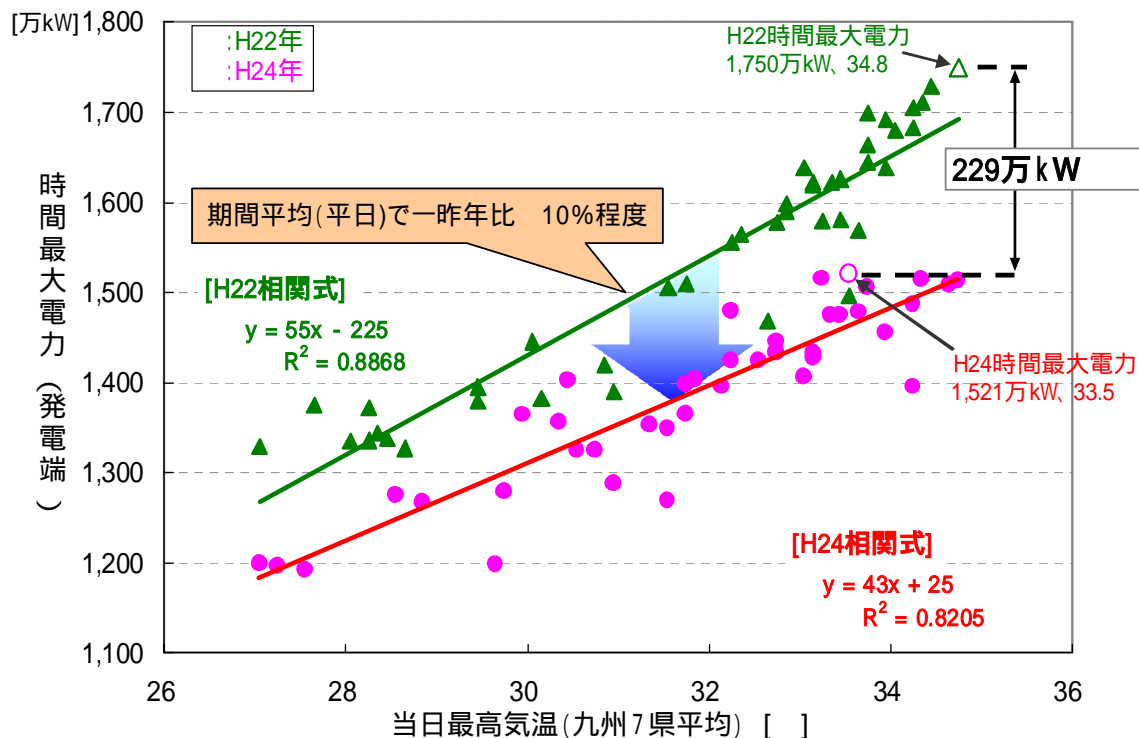


[梅雨明けの時期]

	九州北部	九州南部
H24年度	7月23日	7月23日
H23年度	7月 8日	7月 8日
H22年度	7月17日	7月20日
平年	7月19日	7月14日

(2) 節電の効果等

【 最大電力と気温の相関 】



【期間平均(平日)における用途別の節電効果等(一昨年比)】

	期間平均(平日)
家庭用 (一般のお客さま)	12% (50万kW)程度
業務用 (オフィスビルなど)	10% (70万kW)程度
産業用 (工場など)	7% (30万kW)程度

	期間平均(平日)
家庭用	12% (50万kW)程度
500kW未満	9% (60万kW)程度
500kW以上	8% (40万kW)程度

注) 期間は7月2日~9月7日までの平日 (お盆期間(8/13~8/15)を除く)

時間最大電力の一昨年実績との比較

	H24年度 (A)	H22年度 (B)	差 (A)-(B)
時間最大電力 (万kW)	1,521	1,750	229 (13%程度)
最高気温()	33.5	34.8	1.3

- 気温の影響 60万kW程度 (3%程度)**
 - 今夏は一昨年に比べ、時間最大電力発生日の最高気温が 1.3 低いことから、気温による影響は 60万kW程度 (43万kW/ × 1.3)。
- 節電の効果等 170万kW程度 (10%程度) 景気動向を含む**
 - 昨年は一昨年比 120万kW程度 (7%程度)であったが、今年は更に 50万kW程度 (3%程度)上積みとなり、170万kW程度 (10%程度)。

(3) 今夏の電力需要抑制対策

お客さまのご協力による夏季計画調整契約の拡充やピーク需要抑制を促す新たな料金メニューの導入

節電のお願い期間を通じた対策

夏季計画調整契約の拡充

- 休日操業シフトや自家発稼動増によるピークシフト・ピークカットを実施。
 - ・ 大口お客さまへの適用期間拡大：6～9月（従来：7～9月）
 - ・ 小口お客さまへの適用対象拡大：300kW以上（従来：500kW以上）
➤ 契約件数：1,289件 調整電力：60万kW（一昨年差+20万kW、昨年差+9万kW）

最大需要電力調整割引

- 小口お客さまの最大需要電力の前年同月からの調整実績（デマンドの差）に応じ料金を割引。
➤ 契約件数：46,426件 調整電力：18万kW程度

需給ひっ迫時における対策

スポット負荷調整契約

- 需給ひっ迫が予想される場合に、当社から大口お客さまに負荷調整を要請。
➤ 契約件数：605件 調整電力：20万kW（要請実績なし）

節電アグリゲーター

- 需給ひっ迫が予想される場合に、節電アグリゲーターから電力使用状況を管理している小口お客さまに負荷調整を要請。
➤ 8社と契約締結 調整電力：0.3万kW程度（要請実績なし）

緊急時の節電ご協力お願いメール

- 節電に協力いただけるお客さまに予めメールアドレスを登録いただき、需給ひっ迫となった場合に当社から節電のお願いメールを配信。
➤ 登録件数：約9万件（配信実績なし）

その他

ピーク料金設定による負荷抑制効果の実証試験を実施（ご家庭向け）

- 今後、分析を行い、ピーク抑制に資する効果的な料金メニューを検討する。

お客さまに節電にご協力いただくため、個別対応やマスメディア活用等、様々な機会を捉えPRを実施

		PR内容	時期	件数等
お客さま	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、広報誌等による節電取組事例・効果の紹介 ・「でんき予報」による需給状況の発信 ・自治体と連携したPR (自治体ホームページ、広報誌等) ・お客さま事業所内等での節電PRポスター掲示を依頼 ・街頭でのPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・5～9月 ・同上 ・6～9月 ・同上 ・7～8月 	<ul style="list-style-type: none"> ・116回 ・約1万部 ・67回
	ご家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシの全戸配布 ・検針お知らせ票裏面によるPR ・営業所窓口へのチラシ備付、ポスターの掲示 ・節電、省エネに関する親子向け講演会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月 ・7～9月 ・6～9月 ・6月 	<ul style="list-style-type: none"> ・約700万件 ・同上 ・約6,000部 ・約300名
	法人	<ul style="list-style-type: none"> ・500kW以上のお客さまへの個別訪問 ・500kW未満のお客さまへのダイレクトメール送付 ・業界団体への訪問 ・お客さま事業所向け省エネ勉強会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・5～9月 ・6月 ・5～8月 ・4～8月 	<ul style="list-style-type: none"> ・約4,000件 ・約7万件 ・211団体 ・586回
マスメディア活用		<ul style="list-style-type: none"> ・新聞広告・テレビCM・ラジオCM等 ・社員のテレビ・ラジオ出演による説明 	6～9月	適宜実施

(4) お客さまの節電への取組み(アンケート調査結果)

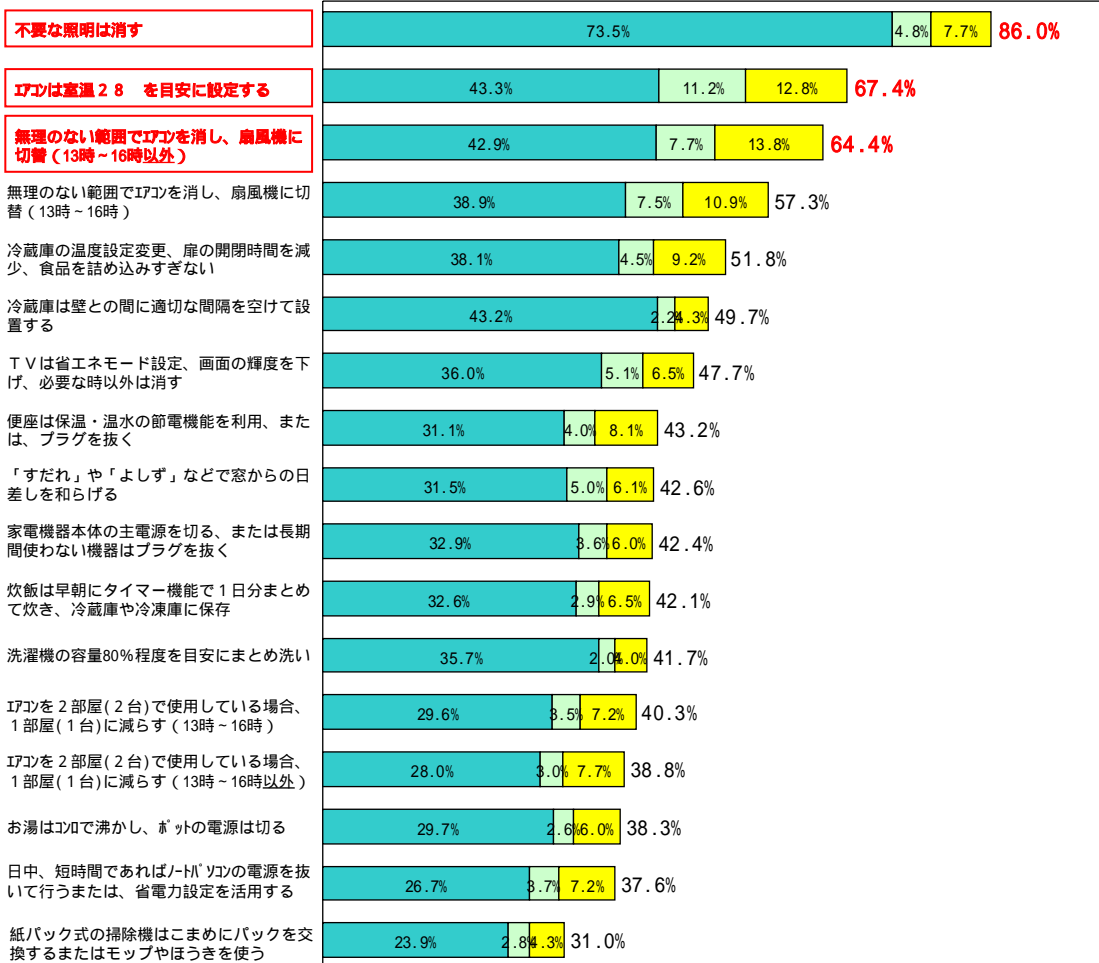
ご家庭用

実施方法
九州7県に住む20代～60代の男女1,000人に対しインターネットによる調査を実施(平成24年9月21日(金)～9月25日(火))

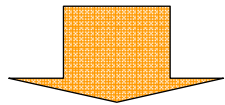
2 今夏の節電を実施するに当たって苦労したこと(自由回答 N=479)

1 今夏実施した節電方法

■ 今夏より実施した
□ 昨夏(H23)より実施した
■ 一昨年(H22)より前から既に実施していた



【暑さと健康上の問題】 (222件)	<ul style="list-style-type: none"> ・寝苦しく睡眠不足になった ・エアコンを我慢すぎて体調を壊し、病気になった ・暑さが厳しく、エアコンをつけずに我慢することが大変 ・防犯上窓を開けて寝ることができないため、エアコンを付けないと寝苦しい ・熱中症対策に苦労した
【家族の協力】 (61件)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の協調や同意がないと難しい ・家族の家にいる時間帯が異なるので、徹底が難しい ・家族に非協力的な人がいるとイライラする
【子供、高齢者等への配慮】 (46件)	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が小さいため、エアコンの設定温度を上げるのが難しかった ・高齢の両親と同居しているため、エアコンの設定温度に配慮が必要 ・ペットの体温調節機能が狂った



節電行動の実施に当たって苦労したこととして「暑さと健康上の問題」「家族の協力」「子供、高齢者等への配慮」などが挙げられている

健康上の問題に注意を払いつつ節電にご協力いただいているが、苦労を伴っていることが窺われる

赤枠で囲った項目が、今夏具体的に実施した節電方法のうち上位3項目

法人

今夏ご協力いただいた節電は「苦勞を伴うものだった」
との回答は5割超

Q：今夏ご協力いただいた節電は、
ご苦勞・ご無理を伴うものでしたか
〔訪問によるアンケート：1,656件 実施：9月〕

はい 905件 54.6%	いいえ 751件 45.4%
---------------------	----------------------

〔法人お客さまの声〕

【輸送用機械】

- 自家発のリースや操業シフトの変更など大変だった。今後、今夏のような節電は難しい。

【電気機械】

- 今後の需給状況によっては、生産拠点の海外移転も含めた経営計画の策定が必要となる。
原子力の再稼働ができないままだと、日本でものづくりは出来なくなる。

【鉱業】

- 今夏、全面的に節電協力を行ったが、下期はその分を取り戻さなければならない。
いつまでも供給不安が続くようでは困る。

【食品製造】

- 今夏は発電機の準備（リース）や燃料の調達で多額の費用が発生した。
また、発電機の運転管理など、本来必要ない業務も発生しており、大きな負担である。

【採石】

- 計画停電が実施されず良かった。
注文がある中、生産調整をして節電を進めた結果、休日返上の稼働となり大変だった。

【病院】

- 病院全体で幅広く節電に取り組んだが、やはり病棟の空調設定は難しく、患者からクレームがでることもしばしばあった。

【小売業】

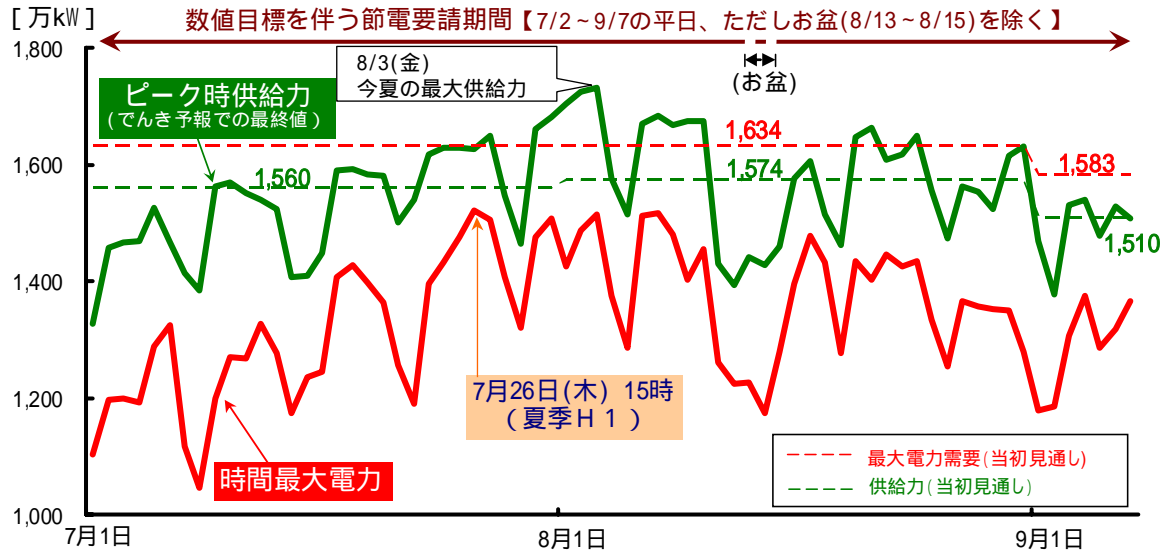
- テナントへの呼びかけ・注意を強化したが、電力会社が大々的に節電の呼びかけをして
いたため、空調や照明の調整を行ってもお客さまからのクレームは無かった。

【ホテル】

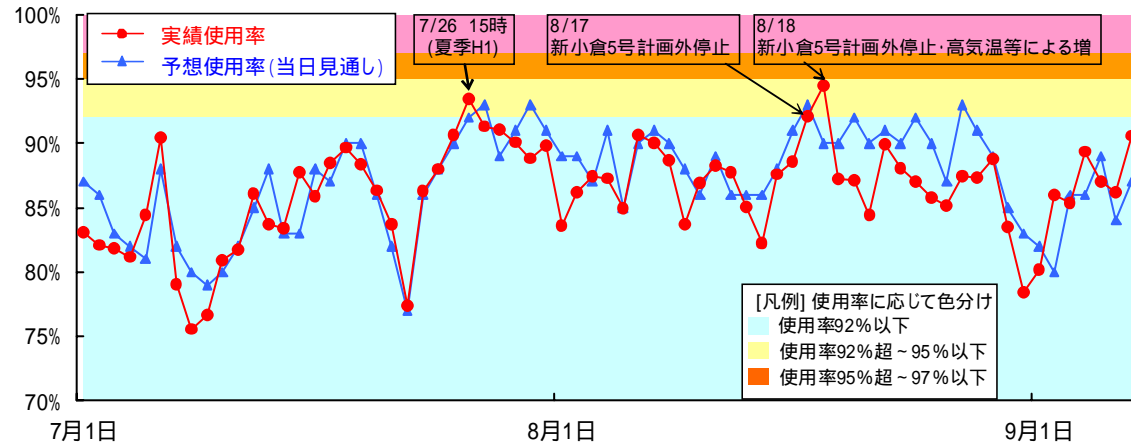
- 出来る限りという思いはあるが、接客業であるため、節電への協力は限られてくる。

(1) 時間最大電力と供給力の推移

【 時間最大電力と供給力の推移 】

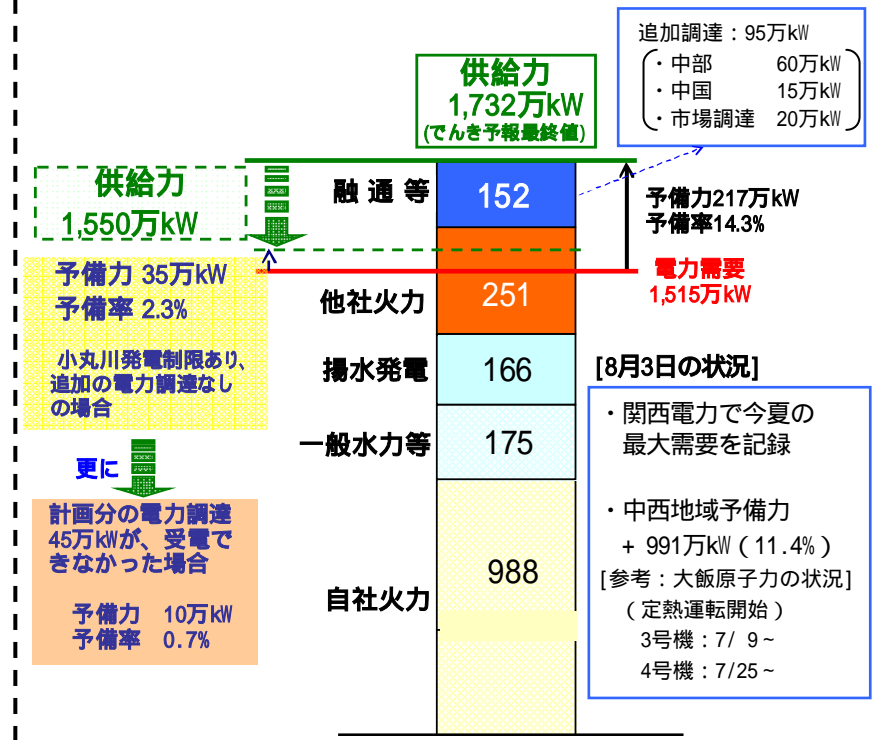


【 使用率の推移 】



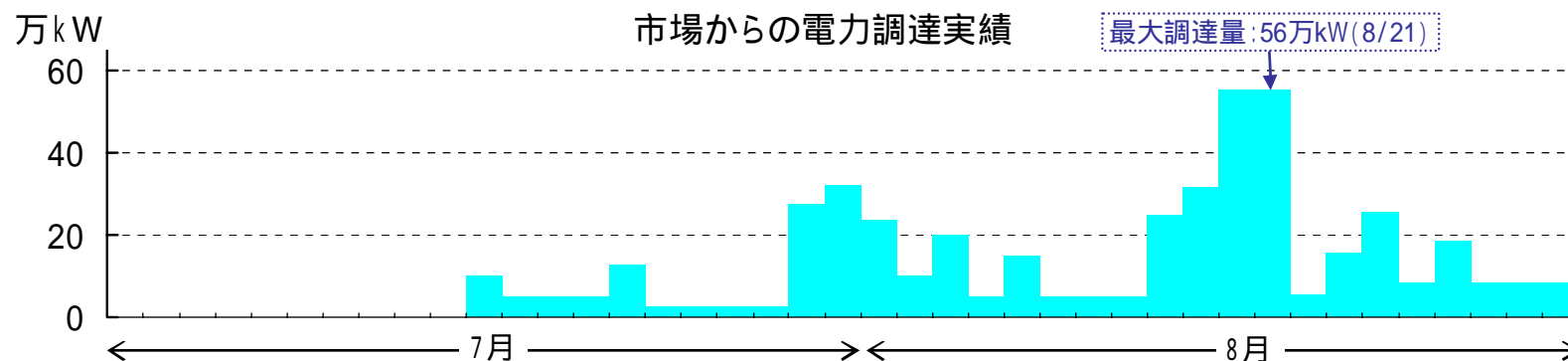
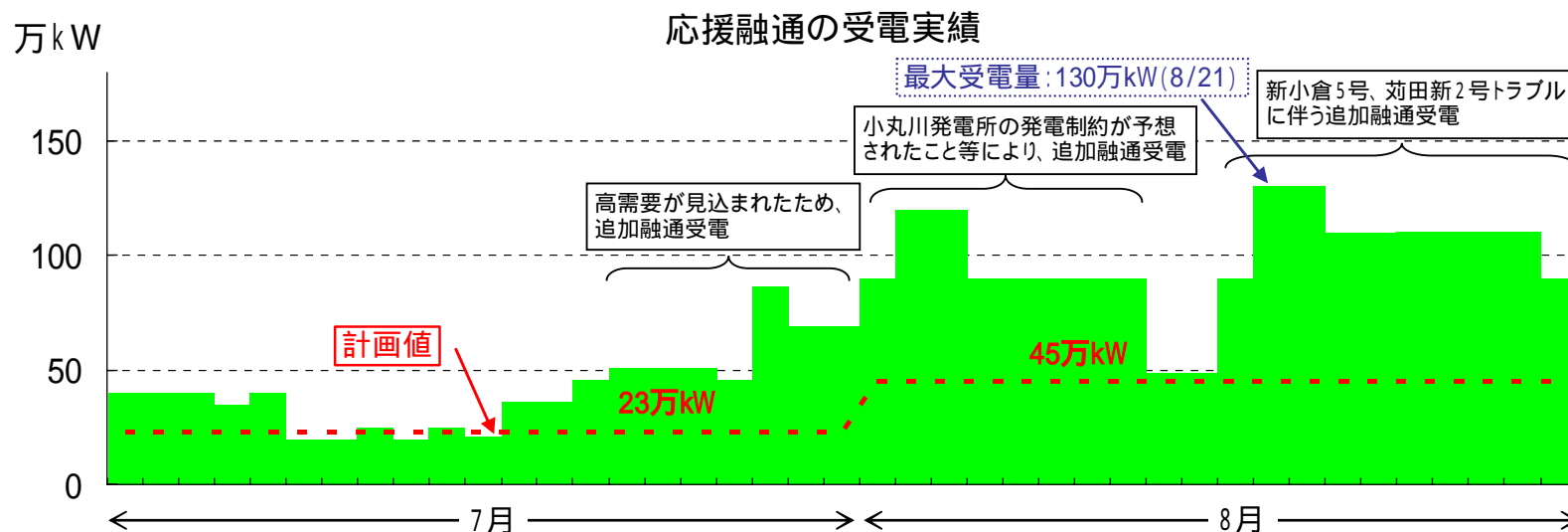
今夏の最大供給力時の需給状況 (平成24年8月3日(金)15時)

- ・ 台風10号の接近に伴う河川の増水により、小丸川発電所（供給力87万kW）の発電制限が予想されたため、8/1～8/3の間、電力会社からの追加の応援融通受電や市場からの電力調達（8/3：95万kW）を実施。
- ・ 結果的に、発電制限は発生しなかったが、仮に発電制限が発生し、かつ追加調達ができなかったとした場合、供給力は1,550万kW（予備率2.3%）となり、非常に厳しい需給状況となっていた。



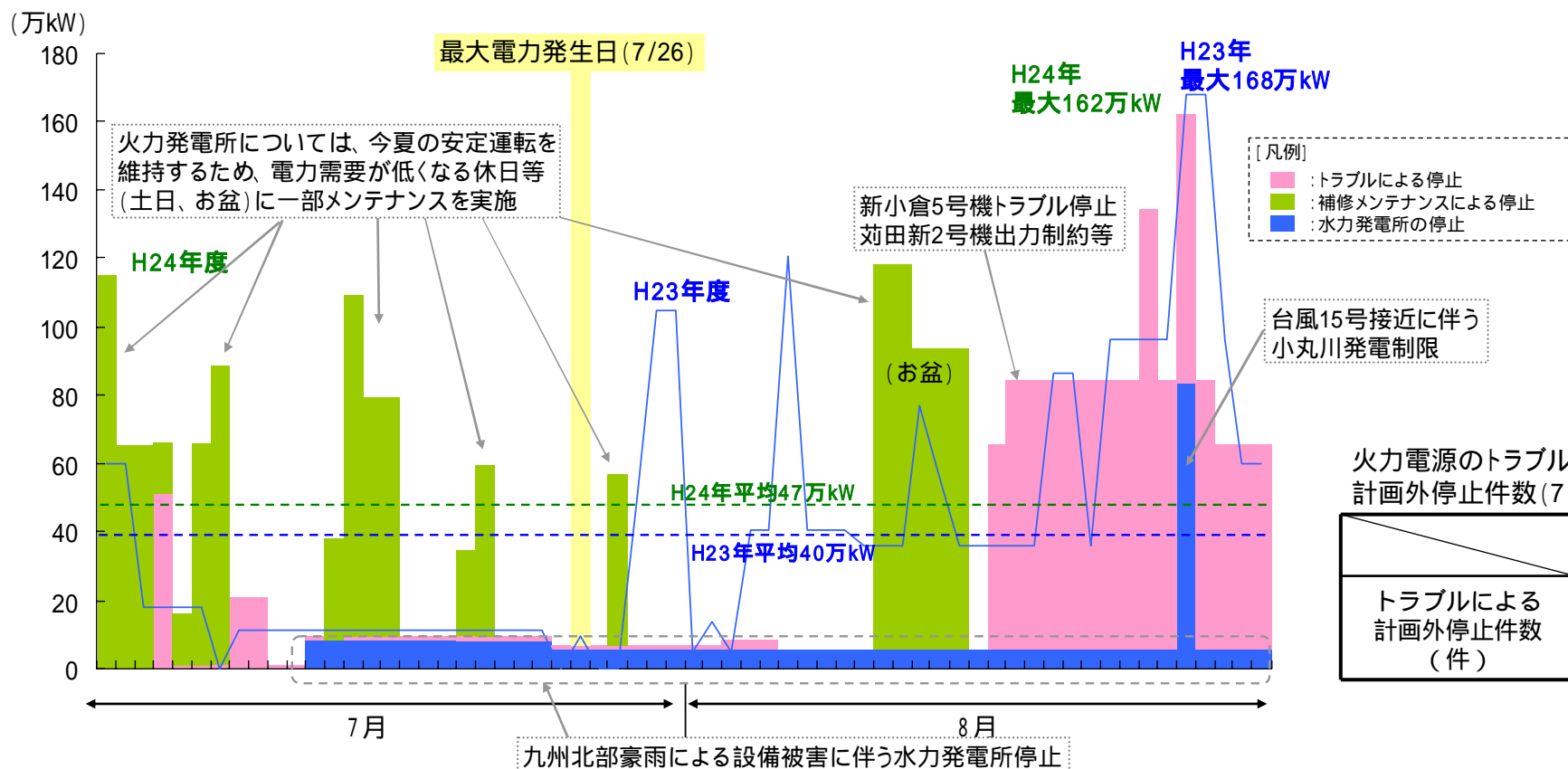
(2) 融通受電状況

- 今夏においては、発電設備のトラブルや需要急増に対応するため、他電力から追加の応援融通受電や市場からの電力調達を実施。
 - 他電力からの応援融通受電：最大130万kW（8月21日）
 - 市場からの電力調達：最大56万kW（8月21日）



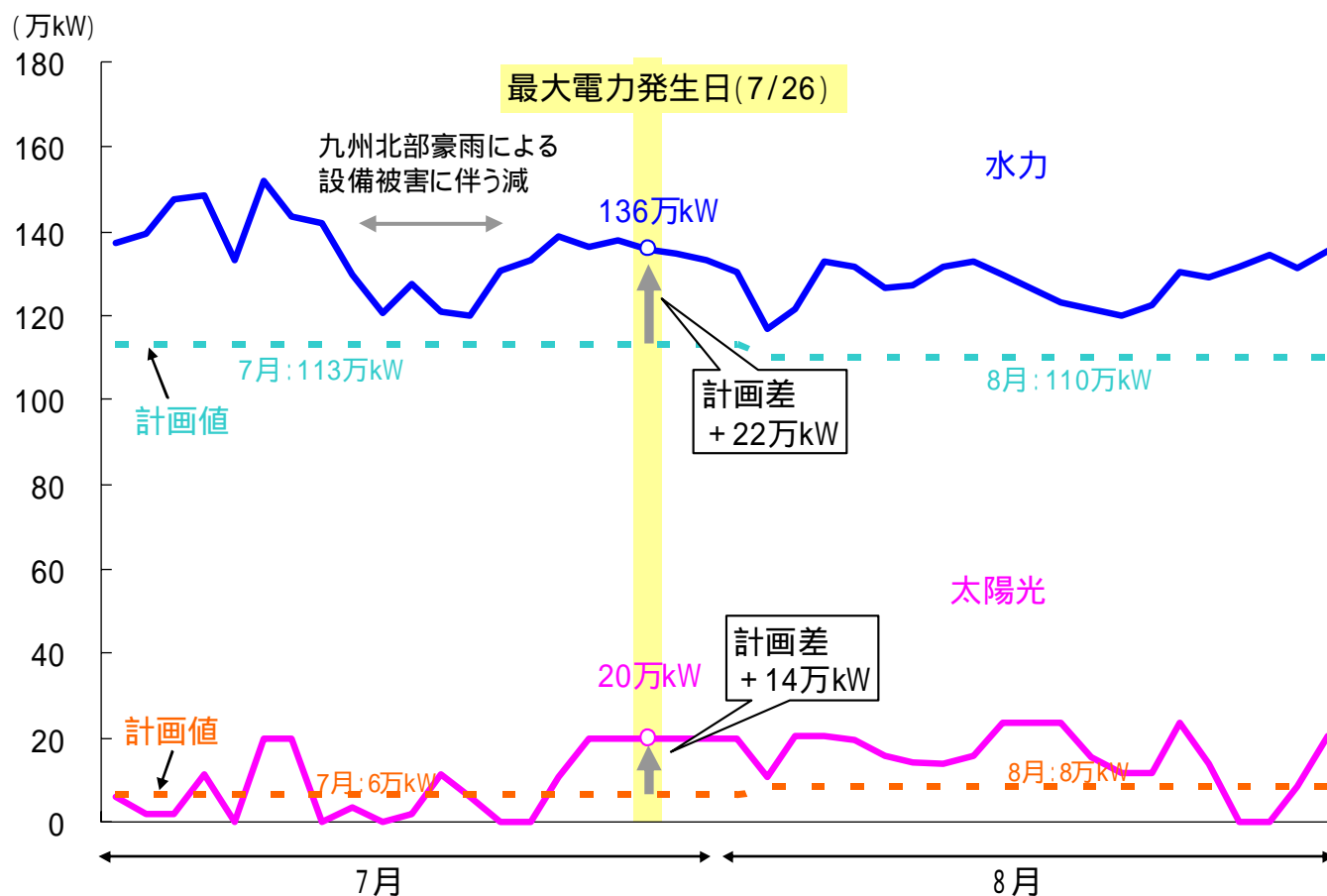
(3) 電源設備の計画外停止状況

- 事故の未然防止に向けて以下の取り組みを行ったことにより、トラブルによる計画外停止は、昨夏と同水準。
 - ・設備巡視の強化（パトロール範囲の拡大や協力会社を含めたパトロールの追加実施）
 - ・平日の安定運転維持のため、劣化が進行しているダクト・配管等の設備について、休日等(土日、お盆)に点検・追加補修等を実施（7～8月計：21件、4～9月計：47件）
- なお、最大電力が発生した7月26日は、主要な火力発電所の計画外停止は発生しなかった。
- また、7月中旬の九州北部豪雨による設備被害に伴い、最大で15箇所の水力発電所が停止。



(4) 水力、太陽光の状況

- 水力供給力については、九州全域で平年より降水量が多く、期間を通して計画を上回った。このうち、7月中旬については、九州北部豪雨による設備被害に伴い供給力が減少。
- 太陽光については、天候によって供給力が大きく変動。7月上中旬は天候不順のため、計画を下回って推移したが、7月下旬以降は概ね計画を上回った。



今夏は、原子力発電所が全基停止し、厳しい需給状況となることが予想されたが、お客さまに節電のご協力をいただき、また需給両面での好条件も重なった結果、電力の安定供給を維持。

〔需要面〕

- ・お客さまによる節電の効果（昨年実績からさらに上積み）
- ・最高気温が一昨年より低く推移、また、8月中下旬は高気温ながら大気の状態が不安定で、雷雨が多発

〔供給面〕

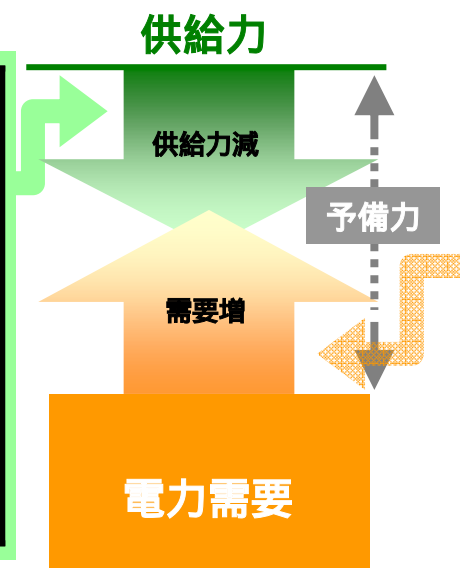
- ・高需要となった期間(7月下旬～8月上旬)に、主要電源の計画外停止なし
- ・降雨増に伴い水力供給力が増加
- ・中西地域におけるお客さまの節電効果に加え、大飯3,4号機再稼動に伴う供給力増により、中西地域全体での応援融通余力が増加（供給力最大日8/3の追加の応援融通：+75万kW、市場からの電力調達：+20万kW）

大飯原子力再稼動状況：3号機 7/9～フル運転、4号機 7/25～フル運転

ただし、以下の需給変動リスクが顕在化した場合、より厳しい需給状況となっていたと考えられる。

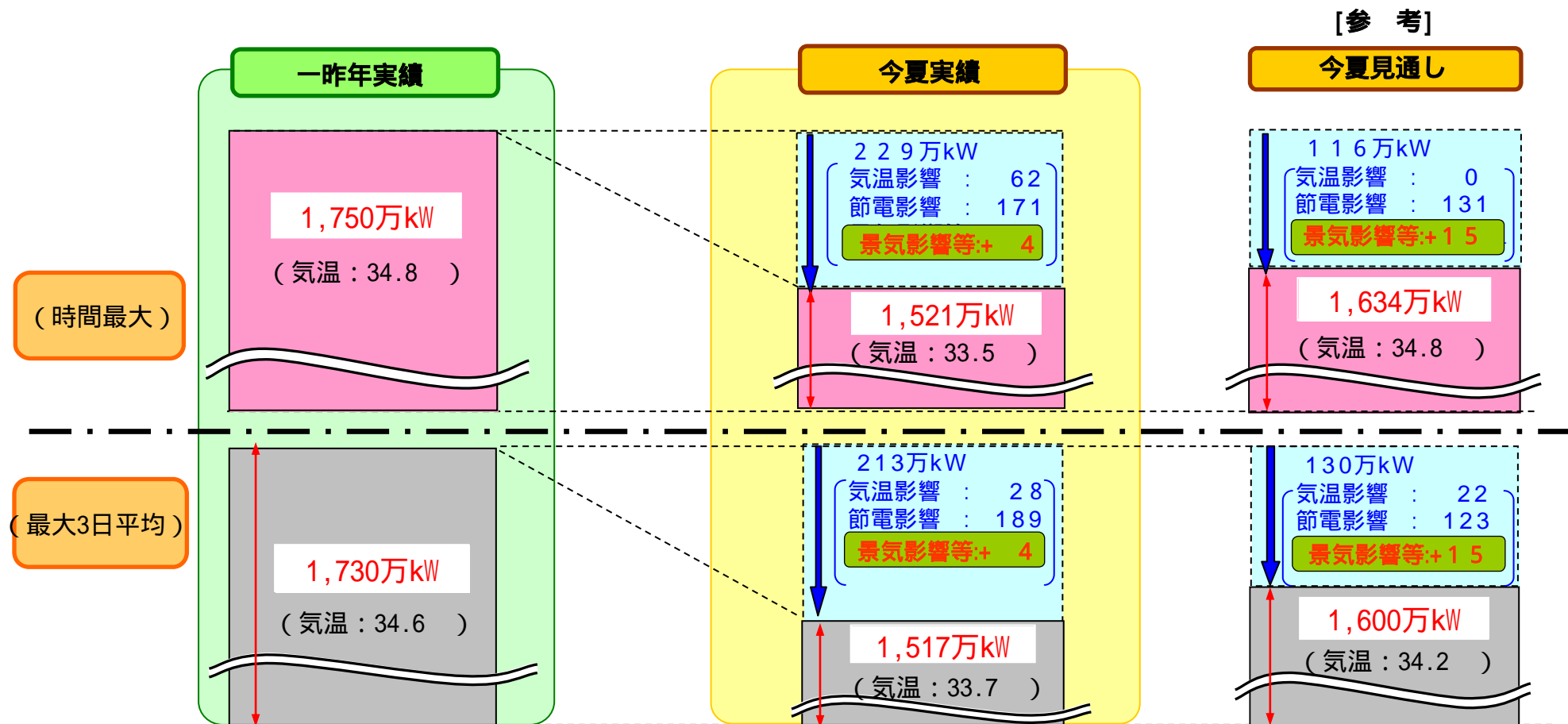
[供給面の変動リスク]

ケース	リスク [影響量]
A-1	発電所の計画外停止 ・単機最大 70万kW ・火力機今夏最大実績 96万kW(9月2日～、新小倉5+苅田新1) ・小丸川下ダム洪水による発電制限 80～120万kW ・豪雨による水力発電所停止実績 10万kW程度(九州北部豪雨)
A-2	渇水による水力供給力の減 (渇水の場合 20万kW)
A-3	他社の応援余力不足による融通受電の減 ・中西地域の予備率の減、1%あたり 90万kW ・他社発電所の計画外停止



[需要面の変動リスク]

ケース	リスク [影響量]
B-1	猛暑による需要増 (・気温1あたり +40～50万kW)
B-2	節電効果の減 (・節電率 1%あたり +17万kW)



[景気影響等の一昨年差 (+4万kW) の要因]

経済成長による増 +22万kW
 (GDP伸び率: 対H22 +2.2%、全国IIP伸び率: 対H22 +1.3%)
 原子力発電停止に伴う、他社受電増による所内電力の低減 18万kW

(注) 全国IIP及びGDPの伸び率については、主要シンクタンクデータから推定

(参考6) 供給力内訳の当初見通しとの比較(7月26日)

[発電端、万kW]

		当初見通し (5/18公表) [A]	実績 (7/26 15時) [B]	差 [B - A]	主な差の要因
電力需要		1,634	1,521	113	お客様の節電への取り組み並びに気温が低めに推移したことによる減
供給力	自社計	1248	1268	+ 20	
	原子力	0	0		
	火力	992	987	5	内燃力出力(離島需要)の減など
	地熱	16	16	±0	
	水力	84	100	+ 16	降雨量の増に伴う水力供給力の増(参考:7月累計出水率:134%) (計画時点では、常に安定的に見込める供給力として、濁水時の供給力を計上)
	揚水	157	165	+ 8	需要減や他社からの受電増などによる揚水供給力の増
	他社受電計	312	359	+ 47	
	火力	252	247	5	自家発からの受電減
	太陽光	6	20	+ 14	当日の太陽光日射量が想定値を上回ったことによる太陽光発電の増 (計画時点では、安定的に見込める供給力として、全国データを基に 設備容量の10%程度を計上)
	水力	30	36	+ 6	降雨量の増に伴う水力供給力の増 (計画時点では、常に安定的に見込める供給力として、濁水時の供給力を計上)
	融通計	23	46	+23	
	中部	10	20	+ 10	中部、中国からの二社間融通の増
	北陸	6	6	±0	(他電力からの余力は、前週から前日の段階で確定するものであり、 計画時点では見込めない。)
中国	7	20	+ 13		
その他	2	10	+ 8	市場からの電力調達などによる増 (他社の余力が前日で確定するため、計画時点では見込めない)	
合計	1,560	1,626	+ 66		
供給予備力 (供給予備率)	75 (4.6%)	106 (6.9%)	+ 179		

四捨五入の関係で合計が合わないことがある。

[今夏(7月~8月)および9月に発生した電源トラブル]

	期 間	日数	発電所 またはユニット	定格出力 [万kW]	概 要
7月	7/ 4(水)	1	川内1号	50	タービン蒸気加減弁動作不良
	7/ 8(日) ~ 7/ 9(月)	2	新大分2号系列3軸	22	起動時の蒸気タービンの軸受振動大
	7/ 4(水) ~ 7/12(木)	9	新有川3号	1	シリンダ注油装置不具合
	7/14(土) ~ 8/ 5(日)	23	新有川3号	1	シリンダ注油装置不具合
8月	8/ 3(金) ~ 8/ 5(日)	3	山川発電所	3	循環水ポンプ不具合
	8/17(金) ~ 8/21(火)	5	新小倉5号	60	ボイラーの管からの蒸気漏洩
	8/21(火) ~ 11/中旬目途	-	新小倉5号	60	ボイラーの管からの蒸気漏洩 (当初計画の定期点検を併せて実施)
	8/18(土) ~ 8/27(月)	10	苅田新2号	38	低圧重原油ポンプ点検に伴う出力制約 (19万kW以下)
	8/25(土)	1	豊前2号	50	空気系統片系列運転中のボイラー燃焼不安定
	8/27(月)	1	小丸川発電所	120	下ダム流入量増に伴う発電制限
9月	9/ 2(日) ~ 12/上旬目途	-	苅田新1号	36	ガスタービン発電機の異常 (当初計画のボイラー点検を併せて実施)

(参考8) 発受電電力量実績 (一昨年との差)

